

にしっこ 西っ子のみなさんへ 120 11月15日

わたしの家の近くに「天神神社」があるのですが、この土日は、和装をした親子でいっぱいでした。今日、11月15日は「七五三」の日ですね。男の子は数えの3歳と5歳で、女の子は3歳と7歳の年に、成長を祝って氏神様をお祀りする神社や寺院を参詣する日です。ただ最近では、数え年ではなくて、満年齢でこの行事をする家庭がほとんどです、早くは10月に行う家庭もあるようです。

昔は、小さなうちの死亡率が高かったため、3歳の男女児が「髪置きの儀」、5歳の男子が「袴儀」、7歳の女子が「帯解きの儀」というお祝いをしていました。明治時代になって、これらの3つのお祝い事をまとめて「七五三」と呼ぶようになり、庶民に広がったみたいですよ。

「七五三」というと「千歳飴」ですね。細く長く、紅白に着色された飴で、鶴亀や松竹梅などの縁起ものが描かれた袋に入れています。

「健康で長生きできますように」という願いが込められた品で、この飴を食べてお祝いします。



昔も今も、我が子の健康と長寿、幸せを願う親心の表れによる日本の行事ということですね。

千歳飴は、浅草の浅草寺が発祥で江戸時代に紅白の飴を棒状にして売り出したのが始まりとされていますが、なんとこの千歳飴に長さや太さの制限があるのだそうです。知っていましたか？ 長さは1m、太さは15mm以内なのだそうです。なぜこの長さや太さなのか調べてみてもどこにも書かれていません。誰か知っていたら教えてください。

縁起物の飴なので、折って食べるのはよくないみたいですが、1mの飴を食べきることはなかなか難しいそうですね。